

NEWS LETTER

Vol.10 開催日2020.2.27

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
協議体立ち上げ支援モデルの取り組みを紹介します。

岩津はひとつの大きな家族

by 北部包括（岩津学区）

【目的&ねらい】市営住宅、空き家、公園活用という異なる課題に対して、関係者をつなぐことで、新たなネットワークとコミュニティ拠点作りを目指す。

【活動報告】

（岩津学区）これまでの活動をまとめて報告

「地域資源を活用したボトムアップ型のつながりや助け合いづくり」として3つの取組をつなぐ支援を実施。

①空き家活用…子ども食堂を定期的実施②公園愛護運営会…9月防災キャンプ、12月に「岩津のまのクリスマスマーケット」の開催③市営住宅…アンケート実施、10月からみんなが集まれる場としてのサークル活動を継続実施。それぞれの取組が徐々に住民に認識され始めている。

（細川学区）ロジックモデルで整理して、見守り支援についての現状の取組の見える化を行った。

・キーパーソン／総代、民生委員、学区福祉委員

・成果／子ども食堂に参加している子どもたちが、岩津北公園のイベントに参加するなど横の連携がみられるようになってきた。

・課題／包括の役割として事業そのものの運営を手伝うなどつなぐ前の役割が多く、それぞれの事業の自立化をしていく必要がある。

【助言】今までは、課題に対して対応を考えていたため、やらされ感が先に立つことが多かった。ロジックモデルによる整理の結果、住民ができていることと、立場による考え方の違いを見える化することができ、「どういうまちにしたいか」という視点で取り組みができるきっかけになる。

今回のキモ！

『認知症』の方も『独居高齢者』も住：

行っている人 (資源)	その目的 (活動内容)	回数 (直社)
学福 在宅福祉部会	75歳以上独居	対象者86人 スタッフ22人
	80歳以上夫婦 安否確認 (どちらかが要介 護)	訪問対象者名簿作成 訪問記録の記入

自分で出てこれない人、相談できない人にどうアプローチをするかを検討するためにロジックモデルで現状の様子を整理して見える化！

【目的&ねらい】協議体形成のため、情報や課題を共有することで学区に横のつながりを作ることを目指す。各町の取り組みを互いに意識してもらいながら、見守り体制や通いの場作りにつないでいきたい。

高齢者支援の土壌を耕す

by 中央包括（梅園学区）

今回のキモ！



籠田公園運営会議に出席した際に、キーパーソンより籠田公園をモデルとしてごまんどく体操を広げていきたいという意見があり、今後が楽しみである。

【活動報告】当初は学区全体への働きかけを目指していたが、地域性の違いが大きく分団単位に切り替えた。しかし、分団単位でも町によって考えの違いがあり、各組織の横のつながりや理解が重要であることから、情報収集とつながり作りを主に行った。ごまんどく体操もいくつか立ち上がり、独自で行われている活動があることもわかり、各組織がお互いに情報を得る手段と住民に伝える広報媒体が必要だと感じている。

・キーパーソン／総代、民生委員、学区福祉委員

・予定／籠田公園でのごまんどく体操体験会5月実施予定。総代、民生委員による参加の声かけを実施予定。ミソ端会議は会議が重複したため参加者が少なかった。4月の学区福祉委員会総会に向けて準備をしていく。

・課題／通いの場の空白地帯への声かけ、横の連携の充実、老人クラブの実態把握、住民への活動周知

【助言】広報メディアによって、梅園学区の他の学区にはない独自のよさを広報できるとよい。これがないからこれを作ろうといった課題解決型アプローチよりも、住民の強みを生かして、「ありがたい地域の像」を皆で描いて、目標に向けて動けるようになってくるといった形のほうがいいのではないかな。

◆編集後記 ◆新型コロナウイルス感染症により、イベントや教室が中止になり、外出する人も減少しています。高齢者が家に閉じこもりがちになると生活が不活発になり、筋力や認知機能の低下、意欲の低下など影響が出ないかとも心配です。私は、公園や山、海など人が少ない自然な場所に出かけるようにしていますが、ごまんどく体操のように足に重りを付けて家の周りを散歩するだけでもかなり効果的だと思います。いつの間にか、梅や菜の花、河津桜も咲いていて、寒さが物足りない冬の終わりと春の訪れを感じることができます。